

【年中行事関係綴】

やまもとひでお
山本秀雄



▲今日でも島の各集落で盛んに行われ、
継承されて続けている伝統行事の一つ「鬼火焚き」。
写真提供/上屋久町

屋久島の年中行事を調べて久しいが、なかなか成果は上がらない。資料の不足、行事そのものの消滅が大きな原因であるが、今一つには伝承・伝聞を確かにする人の少ない事である。そして、その行事を必要とする時代ではなくなったという事であろうか。

さて、一口に年中行事と言っても、その区分は三つに分かれる。

一つは、大きく行政・団体などの主催にかかるものであり、学校教育行事や運動会、文化芸術祭などである。

二つ目が集落毎に行われるもので、伝統性を帯びた最も重大な意義を

有する行事で、本来集落中心に農耕・漁業・林業などが栄え、住民の生活を支えて来たあとをもし、物語っているものが多い。また氏神祭・先祖供養などの宗教行事や共同作業・団結や親睦・娯楽芸能・衛生思想の普及、品性高揚・児童育成などにも関わり、各行事には幅広い内容が村を支える住民に活力を与えて来たあとを示している。

三つ目が各家庭の歴史に根差すもので、近所隣りとの交流を含んで、私的な行事は月毎に多かつたものと思われる。

最近では都市化の波をかぶって没交渉が進み、挨拶礼儀をも失い、殊に若者世帯には、本家親元に行われて来た伝承を移し行う人達が殆どいない。従って民俗行事の伝承が阻まれているもまた事実であり、かくして消滅は進むのである。

因に屋久島においても共通の趣味をもって集まる人達の行事も、新たな共同体を組織して活動を広げている。企業や家元の主催するものも一過性でなく、回を重ねて年中の行事に参加しようとしており、性質を異にするとはいつても今日の時代の民俗行事に名を残し得ようか。

本誌三十七号に一般的な「正月飾り習俗について」を紹介したが、今回より続けて「屋久島の年中行事」を月別に記して取り上げて行きたい。今日においては残念なことに、行事について書きながらもそれを実感できない事である。それが既に消滅しかかっているためであるが、後年復活を与える鍵ともなることを念頭において、載せておくことを許さりたい。ひとつの資料として役立つことを願っている。

尚、参考資料として宮本常一著『屋久島民俗誌』昭和十八年、並びに内藤喬著『屋久島民俗聞書』昭和二十八年に世話になった。

正月（一月）の行事

正月一日

- 水迎（若水汲み）午前三時頃あらかじめしめ縄を張っていた水桶に水を迎え入れる（現在は湧水・井戸も少なくなりつつある）。
この水は先ず神様にお供えするものである。
水迎えの詞は、
「あら玉の、年の始めに、水むかえ、水は汲まずに、黄金の杓で米を汲む、よねを汲む、よねを汲む」と、繰り返して唱える。

- 雑煮の祝膳家族全員に屋久杉製の膳が揃っていた。歯ガタメ雑煮ともいって焼き餅を入れた汁に豚肉又は鳥肉、大根、里芋、人参、千本（ネギ）などの入ったものである。他に数の子、肴（刺身イアカバラ、サバ、ムロ）、それに鈴白すずしろという大根カブ（千切りにした酢の物）、又赤小豆、ササゲは欠かさなかった。
- 初詣元旦は主に男子。女子は二日に詣でた。
- 年始回礼年頭二日間の客には雑煮と塩サバ入りの鈴白を出した。

正月二日

- 水迎これは二日までで後はしない。
- 白起し青年達が未明に各戸を廻って、臼の上に楯に入れて供えたモミ米を臼にうつして少し搗き祝い歌を唱えた。
- 初山入り斧を持って未明に山に入り、堅い元気な木を切る。
- 火箸の使い始め
- 金山様祭り鍛冶屋、タタラの仕事始め。
- 作祝い正月のお供え物をして祝っていた農具（鋏）を持って畠へ入り、二つの畝を作って帰った。又田圃農家は田の水口なぐちに正月飾り一式と洗米・酒・餅等を供えて、水の廻れることなく豊作を祈る。

夕方は集落をあげた祝宴を行う。

- 初商い 商売人のみ
- 船祝い・網祝いい 火子・水夫全員が集って盛大な祝宴を行う。この席で歌う舟歌は有名であったが、現在歌える者は少ない。
- 門出・旅立ち始めい 旅仕度に山行道具を背負って、門を出て少々歩いてから帰った。
- 神詣りい 主に女子の参詣日となる。
- 恵比須様詣り
- 大工祝い
- 書初め・読初めい 昔は正月十二日であったとされているが、いつの頃からか二日に行われるようになった。
古来より目出度い文句として・春鳥啼・春水満四澤・春風春水一時来・長生殿裏春秋富・不老門前月遅、他色々あったと聞く。

正月三日

- 元日、二日の廻礼を止め、最近では集落毎に三日を氏神の例祭日となし名刺交換日ともなっている。

正月六日

- 六日下シい 六日節句といって神様、仏前、墓地にお供え物をする。お供え物はドラの木と若木（山ビワの木等）を五寸位に切ってカシワイチゴの葉に赤飯を盛って供える。
- 夕方は七日の鬼火焚の用意に門松を集める。

正月七日

- 七草祝い 七種粥
- 鬼火焚い 集落の悪魔払日として最も正月らしい行事。門松など正月の飾り物を所定の海浜、又は広場等に集め、真ん中に長さ二十メートル程の大竹を立て、先端に畳大の紙に赤鬼・青鬼の絵を描い

て吊るし、その鬼を選ばれた青年が白装束姿で弓を射て魔を払い、同時に子供達は小石を以て思い思いに鬼を打って引き倒し、火を付けて焼く行事である。最近では観光的にも賑やかな行事となった。

○ 福祭文 集落全戸の門を廻って祭文を唱える。青年・子供達の役目である。縁起物として各々志の金品を渡す。貰った鏡餅を用いておしる粉を作って楽しむ。

◇ 木戸祝歌詞 福祭文

祝うて申す

こうれの門松 いつもより今年は

木戸の松が栄えた 栄えたも道理よ

東の方の枝には飛魚が下がって

西の方の枝にはウグイスがとまって

ウグイスがめえに生えたる稲は

一株刈れば千石 二株刈れば二千石

そなたの宿を見わたしてみれば

米の俵千石 もみの俵二千石

祝うて申す

◇ 舟祝歌詞 船主、網元の家で行われる。

祝うて申す

こうれのお船に白金柱をおしたてて

黄金の滑車をくるませて

本帆にや綾錦 手綱荷縄ととのえて

宝一隻積みこんで

宝が島に打ち向けて 思う港にそよそよと

祝うて申す

◇ 次に井戸祝歌詞 井戸のある家で唱われる。

祝うて申す

こうれのお庭に井川を掘りて

水は汲めども泉の滝が湧き候

白金びんに黄金のひしゃく

汲んでも汲んでもつきはせぬ

祝うて申す

○ ジンドウサマ ジンドウ節句とも言う。

祭りの意味・占法、又どんな文字を当てるのか定かではないが、中国の古事にならない、一年の吉凶を占うもののようなのである。東方朔

という占書に、元日は鶏を占い、二日は狗を占い、三日は羊を占い、

四日には猪を、五日には牛を、六日には馬を、七日には人を占うと

いって、その日が勝れて穏やかであれば生き物ははん蕃殖し、曇る

時は災いがあるといって、その日の天候で一年の吉凶を占うと。

屋久島に行われた興味ある祭りであるが、中国からの伝わった古事

によるものではないだろうか。

宮之浦では藁縄で小さなツトを作って、その中に小石を入れ、一

定の長さの縄をつけ、子供が二組に分かれてこれを投げ合い当たっ

た者は負けになった。一種の占法のようなのであるが細かいルールは不

明である。

正月八日

○ 安産祈願 鬼子母神詣

正月十日

○ 恵比須祭り 浦祭りともいって船主・網元船中（火子）中心に弁

当持参でそれぞれの恵比須様の前でお祝いをする。

正月十一、十二日にかけて

○ 法華宗の講中読み明かし三三講ともいって題目を唱える。現在

は各寺院の内々の行事となっている。

- 金祝い 一文銭など穴開銭を紐につないで親戚縁者を招いて拝ませ、お祝いをすること。本来は別な意味があったのではないだろうか刀剣・鉄砲武器を拝観する等今は定かではない。

- 硯祝い 〓お師匠さん、先生方を招いてお祝いをした。

- ケズリカケ 〓神事で柳・イヌタブの木の皮を剥いて削りかけにして門口に立て邪気を払い服を招くまじない。神社や神棚にも五、六寸の親指大の大きさのタブの木に縄目、綾地に焼きしるしをしたケズリカケを供えて豊作を祈願する主に豊作祝いであった。

八センチ〜一メートルの大きなケズリカケを作って土や果樹を叩き、又蚕や繭の無害生育を願った。盛沢山な行事のため元日に準備した小正月として新たに餅をつき、赤飯を炊いて田畑、農具にもお供えをした。今、これらの農作行事は島の南側に見られ、これは気象条件によったものであろう。桑の木の豊富な島には稚蚕飼育場も多くあり、全国に蟻児ありごが送られていたが、化学繊維の発達によって天蚕は姿を消し蚕祝いの行事は失われたが、小枝の多いエゴノ木の枝先に小餅をさして大黒柱や神棚に供える事は伝承されている。小餅は繭に擬したものである。

正月十四日

- 小正月 〓正月に準じたお備えをする。農作祭り、蚕祭り（蚕舞という歌舞も行われたが現在は行われぬ）、お餅をつき田、畑、農機具にお供えする。

正月十五日

- 十四日の行事を十五日に行う所もある。昔正月に御三日ごさんじつといつて一日、十五日、二十八日に赤飯を炊いて神社に供え、家中清める儀式があったというが、二十五日正月までの間の行事が混同して本来の姿がわからない。

農具祭りあり、ケズリカケあり、厄払いあり、生り物（果樹木）攻めあり、ジンドーの節句あり、桑団子まきこの日（子供の遊びの日）あり、又ヨメ女出せといひ、この日子供たちは嫁女を追いかけて墨を塗った。

- 今日では成人式という祝日 〓成人式は昭和二十四年が最初である。

- 十五日 〓蓬萊をしき、お粥を炊く。

川上の清浄な水をお椀に汲み、小石を三個入れて持ち帰り、竹柴で水を撒き家中を浄めた。又箕の中に米一升を入れた樹と柳の枝三十センチ位、先を四つ割にし、カヤ七本を根抜きにして箕の中に飾った。その時子供達が唱える詞は、「あら玉の、年の初めに蓬萊しいて、波打ち見れば伊勢が浜、潮より先に、とんといり込む十二方の作り物、穂に穂がいのないように、芋ん子はゴロゴロ、栗ん子はブラブラ」

- 普通は子供達が行うが大人に代わることもある。
- ホダレヒキ 〓蓬萊をしくと同

気がつけば、
あなたも自然の一部。
肌で知る、
「自然島」のエコツアー。



エコジカルスポット
自然島

「自然」と触れ合う為のグッズ等を取り揃え、大自然との付き合い方を提案しています。
どうぞお立ち寄りください。

エコツアーのご相談は
お気軽にどうぞ。

(有)自然島

TEL&Fax 09974-7-2364

〒891-44 鹿児島県熊毛郡屋久町麦生313-63

文献資料紹介

儀と思われる。麦生の集落では前夜、家長が綺麗な藁を一握りほど芋の煮汁を鍋の中に入れ、柳の太箸で押し引く、この藁はそのまま十五日の朝までどこかに下げておき、十五日の朝の小豆粥の汁を平らな容器に移して芋の場合と同様の事を行った。

その時に次の詞を唱えた。

「ほだれひく伊勢ヶ海、波の荒神陸の海、四十三品のつくり物、

根は太う葉は広う、うわに虫づきごらぬように、目出度いものは芋どの様、親に子がつき、その子に子がさす、親は今年まで」

このホダレヒキに使った藁は俵の形を作り、先の柳箸に差しして長押の上に立て、別にカシワイチゴの葉にお粥を入れて包み、又先の柳箸の先を四ツに割って挟み、同じく長押に立てておいた。

正月十六日

○ 山仕事をする人達が正月、五月、九月のこの日に盛大な祭りを行う。獵師などはこの日は仕事を休んで酒肴を作りお祝いをした。各自家にお供えをし、職場でも盛んに山神供養を行った。この日、山に入ると危険があると言ひ伝えられる。つつしみの日ともいう。

○ 初浦祭り||漁師は恵比須様詣りをした。

正月二十日

○ 生り物いじめ||果樹を叩きながら詞を唱えて廻る子供達の行事。

「生れ生れ生れよ、生らんといいと、山斧を持って切ってはねる」
○ 二十正月||オーバン竿に吊るした魚・大根を全部下ろして料理を作って食べた。

○ 正月飾り物をすべて取り除いて海に流す日であった。

正月二十三日

○ 月待ち||二十三夜待は大切な祭りであり盛んに行われている。楠川集落では役目に当たる人は前日から水をひかえ、入り日を祭り、

夜の月の出を迎え、二十四日の夜明けを待つて日の出を祭って祝う。その間に便所に立つことも膝をくずすことも許されない厳粛なもので、村人一同でお寺に集まり一晩おこもりする。

大人は役に当たる人のトギをするが、話しかけることは禁じられていた。ただし、おこもりをする人同志の間では飲食は自由、又月の出ののちは仮眠もできた。大切なことは祭壇のお供物で決まった作法があった。

十二の月の餅(三日月型)と三百六十五の日の餅・トコロ・広目などを中心に所定の山海の地たら物をお供えして、日の入り、月の出、日の出の三回を祭るのである。又集落から用意する他にかつて災難に遭遇された家族や病人のいる家庭、更に特別な願い事があれば月餅・日餅を作って一緒に祈願の祭に拜むことが出来た。

屋久島での二十三夜待ちは、集落の一カ年の平安、豊作、豊漁、旅の安全、無病息災、商売繁盛等々と村の平和を祈願する大切な行事である。

文具・事務用品から、オフィス・ファニチャー・事務機器を含む。

トータル・オフィスプランナー

OA & SYSTEMS

文昌堂

TEL.2-0840
宮之浦大橋入口

買った時が
見たい時。

カラープリント
60分
スピード仕上!!

コニカカラー
プリントショップ